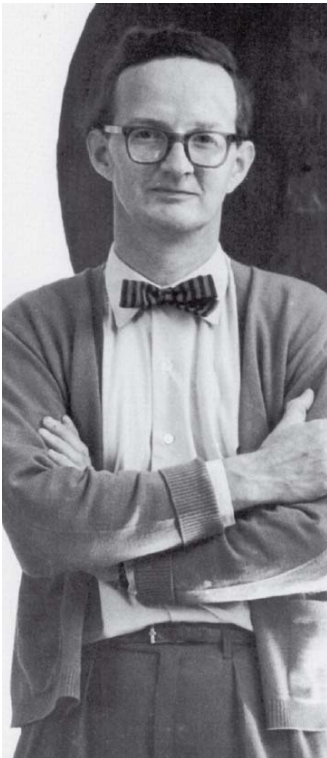


# Stig Lindberg スティグ・リンドベリ 1916-1982 スウェーデン

## <店主の独白>



北欧、特にスウェーデンのデザインに心惹かれてからかれこれ 40 年、いや子供のころ、Volvo P1800 の流麗でありながらシンプルなフォルムに、アメリカの暴力的（マッシュヴ？）なデザインに替わって、はるか遠い存在としてあこがれを感じたのが初めかもしれませんので、50 年以上？

気がついたらスウェーデンに強く心惹かれるものが多々ありました。しかし、世紀が変わったころでもスティグ・リンドベリの作品に好感を持っていましたが、赤丸つけた好きなデザイナーとは認識していませんでした。

ストックホルムへ出張すると、仕事柄、お連れしたお客様に楽しんでいただくため、様々な場所へご案内をしますが、ある日、お客様をグスタヴスベリへお連れしたおりに、グスタヴスベリ陶磁器博物館を見学し、その時、はたと気がついたのです。

スウェーデンの歴史と言ってもよい膨大な素晴らしい陶磁器のほとんどは私の琴線に触れなかったのに、あるゾーンの展示品が私の心を揺さぶりました。それがスティグ・リンドベリの作品でした。その前後に飾ってあるヴィルヘルム・コーゲモリサ・ラーションも嫌いではありませんが、揺さぶられ方が全く異なる衝撃は、人生幾度もある体験ではありませんでした。

その後、機会あれば、彼の作品に親しみ、関心を持っていますが、マニアの手前くらいの存在で、彼の作品を楽しみ続けたいと思っています。下記に彼の略歴を期しますが、紹介したい作品や逸話は本 1 冊でも書ききれません。

### <略歴>

スティグ・リンドベリは 1916 年スウェーデン、ウメオ生まれ。1937 年 Gustavsberg に入社。1937～1940 年の 3 年間 Wilhelm Kage のアシスタントとしてセラミック製造を学びました。

1940 年に Gustavsberg の専属デザイナーになり、57 年～70 年の 13 年間スウェーデンの王立美術学校で教授を勤め、71 年に Gustavsberg に戻りました。

第 2 次世界大戦後、Stig Lindberg はデザイナーとして広く認知されることとなりました。陶磁器製品はもとより、絵本や挿し絵をてがけたり、プラスチック製品・テキスタイルなど多岐にわたるデザインをてがけたりし、多彩な活躍をしまし、20 世紀のスウェーデンの繁栄の基礎にたずさわった名デザイナーです。

また日本では西武デパートの包装紙をデザインしています。現在の日本での北欧ブームの火付け役も Stig Lindberg といっても過言ではありません。

2016 年に生誕 100 周年記念行事が世界各地で開かれました。